

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-11	高等学校	公民科	倫理	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	倫理 310	高等学校 改訂版 倫理		

<p>1. 編修の趣旨及び留意点</p> <p>先哲の思想を自分自身の課題と結びつけ、人間としてのあり方生き方について考えることができるようにすることをねらいとし、先哲の思想を手がかりとして自らの人生観、世界観を確立していくことができるよう配慮した。また、現代に生きる私たちが直面するさまざまな倫理的課題を主体的に考えていくことができるよう課題を設定し、探究する活動を通じて論理的思考力を身につけることができるよう留意した。</p>															
<p>2. 編修の基本方針</p> <p>本書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。</p> <p>各節の冒頭に着眼点を設け、学習するにあたっての目安を示すことで、主体的に学習に取り組むことができるようにした。</p> <p>先哲の思想を学ぶにあたって、現在とのつながりに留意し、節の導入や節末の記述には、現在と関連づけて考えることができるよう配慮した。</p> <p>幅広い知識と教養を身につけることができるよう、本文は難解な表現を避け、わかりにくい内容には脚注を付して内容を補うようにした。また、思想家の略伝、図・表・写真などを効果的に活用して、さまざまな角度から考えることができるよう配慮している。</p> <p>倫理の学習に多面的に取り組むことができるよう「テーマ」を取り入れ、本文を学習した上で、個別のテーマにより学習内容を深めることができるようにした。また、「コラム」を取り入れ、倫理の学習内容に関連する話題などにより倫理の学習に興味を持って取り組むことができるようにした。</p> <p>現代の倫理の諸課題はテーマ構成とし、それぞれの課題についてテーマを設定して、具体的に学習ができるようにした。また、テーマごとに課題を設定し、学習のまとめとして、自分で考えたことをまとめたり、話し合ったりすることができるようにした。</p>															
<p>3. 対照表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">図書構成・内容</th> <th style="width: 50%;">特に意を用いた点や特色</th> <th style="width: 25%;">該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">はじめに 倫理に登場する用語</td> <td>はじめにでは、倫理を学ぶ意味を述べ、真理を求める態度や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第1号・第5号)。</td> <td>p.3</td> </tr> <tr> <td>倫理に登場する用語では正義を取り上げ、「公正・公平」という意味を学べるようにし、正義を重んじる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。</td> <td>p.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第1章 青年期の課題と自己形成</td> <td>人間が他の生き物と違って、知恵をいかして社会生活を営むことを学ぶことにより、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるよう留意した(第1号)。</td> <td>p.6~7</td> </tr> <tr> <td>青年期の人間関係を取り上げ、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。</td> <td>p.13~15</td> </tr> <tr> <td>青年期の自己形成を取り上げ、生きることの意味や生きがいについて考察することにより、自主及び自律の精神を養うことができるよう留意した(第2号)。</td> <td>p.15~18</td> </tr> </tbody> </table>	図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	はじめに 倫理に登場する用語	はじめにでは、倫理を学ぶ意味を述べ、真理を求める態度や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第1号・第5号)。	p.3	倫理に登場する用語では正義を取り上げ、「公正・公平」という意味を学べるようにし、正義を重んじる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。	p.5	第1章 青年期の課題と自己形成	人間が他の生き物と違って、知恵をいかして社会生活を営むことを学ぶことにより、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるよう留意した(第1号)。	p.6~7	青年期の人間関係を取り上げ、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。	p.13~15	青年期の自己形成を取り上げ、生きることの意味や生きがいについて考察することにより、自主及び自律の精神を養うことができるよう留意した(第2号)。	p.15~18
図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所													
はじめに 倫理に登場する用語	はじめにでは、倫理を学ぶ意味を述べ、真理を求める態度や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第1号・第5号)。	p.3													
	倫理に登場する用語では正義を取り上げ、「公正・公平」という意味を学べるようにし、正義を重んじる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。	p.5													
第1章 青年期の課題と自己形成	人間が他の生き物と違って、知恵をいかして社会生活を営むことを学ぶことにより、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるよう留意した(第1号)。	p.6~7													
	青年期の人間関係を取り上げ、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。	p.13~15													
	青年期の自己形成を取り上げ、生きることの意味や生きがいについて考察することにより、自主及び自律の精神を養うことができるよう留意した(第2号)。	p.15~18													

<p>第2章 人間としての自覚</p>	<p>ソクラテスの「魂への配慮」やプラトンの「魂と国家」, アリストテレスの「徳の倫理」を学ぶことにより, 道徳心を培うとともに, 主体的に社会の形成に参画し, その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第1号・第3号)。</p> <p>ユダヤ教とそれを母体として生まれたキリスト教の教えを丁寧に記述することにより, 他国を尊重し, 国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第5号)。</p> <p>イスラームの教えとともに, 現代のイスラームの動向を丁寧に記述することにより, 他国を尊重し, 国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第5号)。</p> <p>仏教の説く「一切衆生悉有仏性」の教えを学ぶことにより, 生命を尊び, 自然を大切に, 環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した(第4号)。</p> <p>儒教にみられる忠君愛国思想が教育勅語などの形で軍国主義教育に利用されたことに気づかせ, 思想・信条の自由や個人の価値を尊重する態度を養うことができるよう留意した(第2号)。</p> <p>人間は自然界に生かされていることを学ぶことにより, 自然を大切に, 環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した(第4号)。</p>	<p>p.23~24,27 ~28,30~31</p> <p>p.35~44</p> <p>p.45~49</p> <p>p.58</p> <p>p.59~60</p> <p>p.70</p>
<p>第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚</p>	<p>日本人にみられる自然観, 神観念, 倫理観について具体的事例を取り上げ, 我が国の伝統と文化を尊重し, それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう留意した(第5号)。</p> <p>外来思想であった仏教が, 日本仏教として発展していくようすを丁寧に記述し, 幅広い知識と教養を身につけ, 我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した(第1号・第5号)。</p> <p>江戸時代における日本儒学の展開について丁寧に記述し, 儒教的な考え方が日本人の倫理意識の形成にどのような影響を与えたかを考察させることにより, 幅広い知識と教養を身につけ, 我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した(第1号・第5号)。</p> <p>近代日本において滅私奉公の思想が重視されたことに気づかせ, 思想・信条の自由や個人の価値を尊重する態度を養うことができるよう留意した(第2号)。</p> <p>日本人の倫理意識として定着した義理と人情の観念を学ぶことにより, 道徳心を培うことができるよう配慮した(第1号)</p> <p>身分制社会における庶民の日常生活に根差した思想や勤労倫理の特質について考察させることにより, 勤労を重んじる態度や, 我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した(第2号・第5号)。</p> <p>日本人の美意識や芸道を取り上げ, 日本の伝統的な思想や文化に対する理解を深めることにより, 日本人としての自覚を持ち, 他国の文化を尊重する態度を養えるよう留意した(第5号)。</p> <p>明治初期の福沢諭吉の思想や自由・民権の思想を学ぶことにより, 自主及び自律の精神を養い, 主体的に社会の形成に参画し, その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第2号・第3号)。</p> <p>近代的な自我の確立をめざした夏目漱石や森鷗外の思想を学ぶことにより, 個人の価値を尊重して, 自主及び自律の精神を養うことができるよう留意した(第2号)。</p> <p>明治・大正期の女性の解放をめざす動きや, 大正デモクラシーについて丁寧に記述することにより, 男女の平等を重んじ, 主体的に社会の形成に参画し, その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した(第3号)。</p>	<p>p.72~76</p> <p>p.77~87</p> <p>p.88~93</p> <p>p.93</p> <p>p.94~95</p> <p>p.98~101</p> <p>p.101~102</p> <p>p.107~108</p> <p>p.111~112</p> <p>p.113~114, 116~117</p>

	<p>鎮守の森の生態系の保護を主張した南方熊楠の思想を学ぶことにより、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した（第4号）。</p> <p>近代社会を支える主体的な個の確立を主張した丸山真男の思想を学ぶことにより、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p>	<p>p.120 ~ 121</p> <p>p.122</p>
<p>第4章 現代に生きる人間の倫理</p>	<p>ルネサンス・宗教改革およびモラリストの思想を学ぶことにより、幅広い知識と教養を身につけ、個人の価値を尊重する態度を養うことができるよう留意した（第1号・第2号）。</p> <p>経験論と合理論の思想を学ぶことにより、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるよう留意した（第1号）。</p> <p>社会は自由で平等な個人の契約によってつくられたものとするホブズ・ロック・ルソーの思想や、社会契約の思想と現代の民主社会とのつながりを学ぶことにより、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>カントの思想を学ぶことにより、真理を求める態度を養い、道徳心を培うことができるよう留意した（第1号）。</p> <p>「公平な観察者」の「同感（共感）」を重視したアダム＝スミスや功利主義のベンサムとミルの思想を学ぶことにより、道徳心を培うとともに、個人の価値を尊重する態度や、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第1号・第2号・第3号）。</p> <p>よく生きるために主体性を強調したヤスパースやサルトル、ボーヴォワールらの実存主義の思想を学ぶことにより、責任や男女の平等を重んじるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>コミュニケーション的行為を通じて合意と公共性の形成をはかることをめざしたハーバーマスの思想や、公共的に他と交わり活動することが自由な行為に値すると主張するアーレントの思想を学ぶことにより、「公共」とは何かを考察し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>ロールズやセン、ノージックやマッキンタイアの思想を学ぶことにより、個人と公共性の関係について考察し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>実践された倫理を貫いたシュヴァイツァー、ガンディー、マザー＝テレサらの生き方を学ぶことにより、道徳心を培うとともに、生命を尊ぶ態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第1号・第3号・第4号）。</p>	<p>p.124 ~ 129</p> <p>p.132 ~ 137</p> <p>p.139 ~ 144</p> <p>p.144 ~ 148</p> <p>p.152 ~ 155</p> <p>p.164 ~ 167</p> <p>p.175,181</p> <p>p.178 ~ 180</p> <p>p.183 ~ 187</p>
<p>第5章 現代の諸課題と倫理</p>	<p>生命の問題におけるさまざまな倫理的課題を追究するなかで、個人の価値や生命を尊ぶ態度を養うことができるよう留意した（第2号・第4号）。</p> <p>環境の問題におけるさまざまな倫理的課題を追究するなかで、人間の生命が自然の生態系の中で他の生命との相互依存関係において維持されていることや、将来世代に対して責任が問われていることを認識させ、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第4号）。</p>	<p>p.190 ~ 195</p> <p>p.196 ~ 201</p>

	<p>家族の問題をめぐるさまざまな倫理的課題を追究するなかで、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるよう留意した。また、男女が協力して社会を支えることの大切さについて取り扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫した（第2号・第3号）。</p> <p>すべての人が自分らしく安心して生きていくためには、一人ひとりの自立と社会参加を支援し、近隣の住民同士がたがいにつながりあえる地域社会づくりが必要であることを学ぶことにより、個人の価値を尊重する態度と、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第2号・第3号）。</p> <p>自分たちとは違う他者の宗教や文化を認め、互いに敬意を持ちながら共生していくことの大切さについて丁寧に記述することにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第5号）。</p> <p>平等で豊かな社会の実現のために、一人ひとりの尊厳が尊重される社会を形成していく責務が課せられていることを学ぶことにより、個人の価値、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫した（第2号・第3号）。</p> <p>国際社会における日本の役割について考察するなかで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第5号）。</p>	<p>p.202 ~ 203</p> <p>p.204 ~ 205</p> <p>p.210 ~ 213</p> <p>p.214 ~ 215</p> <p>p.216 ~ 218</p>
<p>4 . 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<p>・ 一般的な教養を高めるために、英語との対比で倫理の用語を学ばせる「倫理に登場する用語」のページを巻頭に設けた。また、本文の見開き左ページの欄外に「名言」「Topic」を設け、思想家の名言や主著、本文内容に関連する情報などを紹介した。</p>		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-11	高等学校	公民科	倫理	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	倫理 310	高等学校 改訂版 倫理		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 先哲の思想について、現代を生きる私たちの生き方と関連づけて学習できるよう配慮した。
 - ・単に先哲の思想を知識として理解するのではなく、自らの課題とつなげて学習できるよう、現代とのつながりに留意し、節末や項目の最後に「現代とのつながり」がわかる記述を取り入れた。
2. 学習内容は網羅的にならないよう留意し、基本的な事項を理解できるよう配慮した。
 - ・節ごとに着眼点を設け、目的をもって学習に取り組むことができるようにした。
 - ・本文はわかりやすく、かみくだいて記述した。また、脚注で難解な用語を説明するなど配慮した。
 - ・源流思想（ギリシャ思想、キリスト教、イスラーム）では、本文内容を具体的に理解することができるよう特集ページを設定した。
3. 思想家の扱いに留意した。
 - ・本文記述だけではわかりにくい思想の扱いについて、思想家の略伝を取り入れて、思想の背景となる生き方などを紹介することにより、多面的に思想を理解できるようにした。
 - ・西洋近現代思想を扱う第4章では、思想家同士の関係や、思想家の活動したおおまかな地域や時代などが視覚的に理解することができるよう章末に特集ページを設定した。
4. 倫理の学習に関連する読み物や資料などにより、興味を持って学習に取り組むことができるよう配慮した。
 - ・本文内容に関連する読み物の「コラム」や、思想家の言葉を紹介する「名言」、思想家の主著や倫理に関連する情報などを扱った「Topic」を取り入れ、興味を持って倫理の学習に取り組むことができるようにした。
5. 言語活動を充実させた。
 - ・第5章の「現代の諸課題と倫理」では、テーマごとに課題を設定し、生徒自身が調べ考えたことをまとめたり、話し合ったりする作業を行うことにより、言語活動に主体的に取り組むことができるようにした。

2. 対照表

図書構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 青年期の課題と自己形成	(1)		
1 よく生きることを求めて		p.6～7	0.5
2 青年期の課題		p.8～18	3.5
第2章 人間としての自覚	(2) - ア		
1 ギリシャの思想		p.19～34	5
2 キリスト教		p.35～44	3
3 イスラーム		p.45～49	1.5
4 仏教		p.50～58	2.5
5 中国の思想		p.59～70	3
テーマ1 芸術と私たちの生き方	p.71		

第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚			
1 日本の風土と伝統	(2) - イ	p.72 ~ 76	1
2 外来思想の受容		p.77 ~ 93	4.5
3 町人意識のめざめと庶民思想		p.94 ~ 102	2.5
4 西洋思想との出会い		p.103 ~ 122	5
テーマ2 世界に生きる日本人と伝統		p.123	
第4章 現代に生きる人間の倫理			
1 人間の尊厳	(3) - ア	p.124 ~ 129	2
2 近代の科学革命と自然観		p.130 ~ 138	2.5
3 自由で平等な社会の実現		p.139 ~ 155	5
テーマ3 自由であることの意味		p.156	
4 人間性の回復と主体性の確立		p.157 ~ 169	3
5 現代の思想と人間像		p.170 ~ 182	4
6 生命への畏敬と社会参加	p.183 ~ 189	1.5	
第5章 現代の諸課題と倫理			
1 生命の問題と倫理課題	(3) - イ	p.190 ~ 195	3
2 環境の問題と倫理課題		p.196 ~ 201	3
3 家族・地域社会と倫理課題		p.202 ~ 205	2
4 情報社会と倫理課題		p.206 ~ 209	2
5 宗教・文化と倫理課題		p.210 ~ 213	2
6 国際平和と人類の福祉		p.214 ~ 218	2
		計	64